



発行元：ピーエムシー株式会社

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺 1-35-4

TEL:0256-47-3686 FAX:0256-35-0158

<https://www.pmc-jinzai.com/>■ 過去のニュースレターはHPに掲載  
→ダウンロードも可能です。

## 介護職の人材育成・ 人材マネジメントのヒントを情報発信！

～介護職員及び組織に対する育成をトータルサポート～

### 不適切ケア防止研修レポート (多職種で向き合う「虐待の芽」チェックリスト)

こんにちは、ピーエムシー株式会社の斎藤洋です。

先日、某施設にて「不適切ケアを防ぐ」研修を実施しました。この施設では介護職だけでなく、看護師やリハビリ職、相談員といった多職種合同で実施し、その結果、気づきの多い研修となりました。今回はこの研修を振り返ってみたいと思います。

#### 職種間の視点の差

研修の導入として、まずは「虐待の芽チェックリスト」を各自で実施してもらい、その後グループ内で結果を共有し、自分一人では見落としがちな主観的な判断を、客観的な視点で洗い出す作業からスタートしました。

ワークを通じて、「介護職は不適切ケアに気づきにくく、他職種の気づきは厳しくなりやすい」という顕著な傾向に気づきました。

介護職は日々の忙しさに追われ、現場に深く入り込み、今のやり方が「当たり前」として固定化される傾向が強いと思います。

議論の中では、「転倒防止などの危険回避のときの大声」「食事を時間内に食べてほしいという焦り」「複数対応による待機時間の発生」など、不適切ケアが起きやすい具体的な場面が次々と共有されました。

異なる職種の視点が入ることで、現場の慣れに潜む「盲点」を再確認し、自分たちの振る舞いが利用者様にどう映っているかを問い直す貴重な機会となりました。

#### 「なぜ？」の深掘りから生まれた改善策

課題を明確化した後は、「なぜなぜ分析」を用いて要因を深掘りし、明日から実践できる具体的な解決策を話し合いました。特に議論が白熱したのが、咄嗟の言葉掛けについてです。

#### ■ 「つい、きつい言い方をしてしまう」への対策

危険回避などで感情的に声が出てしまうことをゼロにするのは困難です。そこで、その後のフォローを丁寧に行ったらどうかという意見が出ました。

「先ほどは大きな声を出してすみません。お怪我をされるのが怖かったんです」と、理由を添えて誠実にお詫びすることを共通認識としました。

#### ■ 「ちょっと待って！」を減らす工夫

単に「待って！」と制止するのではなく、「今〇〇をしているので、あと5分お待ちいただけますか」と、理由と目安を丁寧に伝える。

これだけで利用者様の不安や不快感は大きく軽減されるのではないかと話しました。

#### 残された課題と次の一歩

今回の研修で、現場の課題の約30%については具体的な解決の糸口が見えてきました。

100%の正解を一度に出すことは難しくても、この「30%の気づき」を現場で積み重ねていくことが、ケアの質を確実に変えていくことにつながります。今回食事に関する声掛けについては、納得のいく改善策を発見することができませんでしたが、これを私たちに課せられた重要な継続課題としてとらえ、今後もその対応方法について考えていきたいと思っています。

#### 主任研修講師 斎藤 のつぶやき



ゴールデンウィークに、気仙沼の震災遺構を見学してきました。気仙沼の震災遺構では、ここでしか見られない津波の映像が本当に恐ろしく、忘れられない体験となりました。



そのほかにも、朝ドラ「おかえりモネ」の舞台となった建物や、ご当地ゆるキャラ「ほやぼーや」のショップなど、見どころがたくさんありました。